

〔河野雅治外務審議官〕

北の大地がはぐくんだサミット



「今年（2008年）の1月から議長国のシェパ（首脳）の個人代表として日増しに増えていくさまざまな課題に取り組んできました。振り返ると、厳しい半年間だった、というのが率直な感想です。

サミットとは、世界の政策形成に直結する舞台であり、責任の重大さをひしひしと感じた日々でもありました。

今回のサミットは数々の成果を生み出したと自負していますが、とりわけ、『世界全体の温室効果ガス排出量を2050年までに少なくとも半減する』という長期目標について一致したこと、G8首脳がそれぞれ異なった立場を乗り越え、共通項を見いだしたという点で、

非常に重い成果だと思っています。

また、今回痛感したことは考え方や問題意識を共有するG8首脳が議題を設定し、議論を深め、政策調整を進めていくというプロセスの大切さです。G8が中核となって非G8国とも対話を深めていく形が、現在におけるサミットの最良フォーマットだと思います。

最後に、北海道の皆様への感謝の気持ちを述べたいと思います。サミットが成功裡に終わったのは、皆さんの上質で暖かいおもてなしの心があったからです。

北の大地がサミット全体を優しく包み込んで、サミットを成功に導いていただきました」

新千歳空港内の海外プレス専用インフォメーション・ブースで通訳ボランティアをしました。英語を話す機会を求めて参加したのですが、毎日英語を話すことができました。各国のプレスや代表の方がブースに寄り、少しの時間ですが話をし、母国での好きな食べ物や勤めている会社などを聞き出すのが面白かったです。また、獣医学部を卒業したというスイス人のプレス（南ドイツ新聞）の人からは、就職に関して新しい考え方、

海外の記者についてや新聞の歴史などをたくさん聞きました。



「新しい考え方を聞きました」

通訳ボランティア
和田みどりさん

特別輸送ヘリコプター（EC-225：スーパービューマ）の機長として、フランス大統領およびオーストラリア首相一行の空輸を担当しました。洞爺湖および新千歳空港周辺の天候は、この時期とても不安定（特に朝夕に霧が発生）で、気象には悩まされました。われわれの編隊が予定していた6個空輸任務のうち、実施できたのは最終日の2個空輸任務だけでしたが、各国の要人の方に安全かつ快適に搭乗してもらうことを目標として任務

に臨み、無事に任務を終了することができて良かったと思います。



「大統領一行の空輸を担当しました」

特別輸送ヘリコプター隊長機長
茂田仁志さん

留寿都村に設置された国際メディアセンター（IMC）開所式の司会と、IMC内の環境ショーケースで、各国首脳夫人のアテンド役をしました。めったにないチャンスなので大変光栄なことだと、喜んで引き受けました。ショーケースの展示には説明が難しいものもあったのですが、一度ご覧になって内容を理解されている福田総理夫人が各国夫人へのレクチャーに協力してくださったこともあり、スムーズに案内ができました。この貴重な経験を、今後

に生かしていきたいと思います。



「各国夫人と貴重な時を過ごしました」

環境ショーケースでのアテンド
中谷真喜子さん

配偶者プログラムのひとつとして、各国首脳夫人らを真狩村に迎えました。後志管内の特産品を発信するために設営された青空市場「北のまるしゅ」に案内した後、花壇の前で写真撮影を行い、レストラン「マッカリーナ」で昼食をとっていただきました。実は、サミット前は雨が少なく、花壇の手入れなどは大変でしたが、夫人たちの笑顔を見た時には、その苦労もふっとびました。村民の方々、村役場の職員らみんなが協力して歓迎

できたことは、一生を通じて大変貴重な経験になりました。



「村民全員で歓迎できました」

真狩村役場
藤澤祐二さん

サミットを終えて

G8 北海道洞爺湖サミット 2008

〔高橋はるみ北海道知事〕

重要なのは、おもてなしの心



「今回のサミットでは、安全な環境と静穏の中でしっかり議論していただけるように、地元として最大限の努力をしました。地元負担を極力抑え、官民一体の道民会議を中心に受け入れを進めました。

主要なテーマである環境・気候変動問題を意識し、ポスターや看板などは、環境に配慮したものとするよう心掛けました。また、花や緑(木)をアピールし、清掃活動に力を入れるなど、ホスト地域らしい盛り上げに努めました。こうしたことを通じて、道民の皆さんの環境意識も高まったようです。食料問題もテーマとなったサミットは、200%の自給率を誇り、日本一の食料供給基地である北海道

のアピールにもなりました。

各国の子どもが集うJ8サミットも開かれ、世界が直面する問題を若い人がそれぞれの立場で真剣に議論できました。首脳、ジュニアレベルに加え、非政府組織(NGO)、先住民や宗教、大学などいろいろな分野の人々が議論したことも意義がありました。

道民会議中心で進めた官民協働の枠組みを今後につなげていくとともに、北海道をさらに世界に発信していきたいと考えています。次に日本でサミットが開かれる予定の8年後は世の中が格段に変わっているでしょうが、重要なのは『おもてなしの心』の一点に尽きると思います」

サミットの会場に決定した時は、とても驚きました。例えるならば、目の前に突然見たことのない大きな山が現れ、頂上に向かえと言われたような気持ちでした。開催中はロシア担当接伴員をしました。分刻みのスケジュールのため、滞りなく進行することにとっても神経を使いました。不安も多く絶対に失敗できないという重圧もありましたが、無事終えることができてほっとしています。仲間たちが心をひとつにして精一杯取り組んだことが、大きなエネルギーに変わったのを感じました。



「心をひとつにして取り組みました」

ザ・ウィンザーホテル洞爺・宿泊部コンシェルジュ
山本真弓さん

洞爺湖温泉街で通訳をしました。初めは通訳のみに目に向いていましたが、町役場や通訳以外のボランティアの方々と接するうちに「ボランティア」の本質を考えるようになりました。ボランティアは頼まれた仕事をするのではなく、自ら仕事を見つけて取り組む人だと思いました。そこで、私以外の方が語学力を生かした活動をたくさんできるように、私がその調整やバックアップをしたらいいのだと考えました。ボランティアのためのボランティアとして、仕事はたくさんありました。



「ボランティアの本質を考えました」

通訳ボランティア
櫻田一平さん

洞爺湖町を花で装飾する「G8開催記念植栽事業」の企画・運営に携わりました。サミット前後、外国の方から「どうしてこの街は花がいっぱいな」と声をかけられたり、花と記念撮影している姿を見ると、この事業をやってよかったと思いました。花や植栽について何の知識もなく、勉強会に時間を費やすなど、大変なこともありましたが、サミットをきっかけに、花に関心がある町民を発掘できたこと、花を通じて町がひとつになれたことが、今回の大きな収穫です。



「花を通じて町がひとつになれました」

洞爺湖温泉観光協会
中村真澄さん

昨年の7月より北海道洞爺湖サミット道民会議事務局の一員として1年間、準備に携わってきました。私は主に北海道の食をPRする仕事に従事しました。その間、さまざまな人との出会いがあり、色々な物の考え方・仕事の進め方を学びました。「北海道の食の素晴らしさ・魅力を世界に向けPRする、という目的はひとつでも、あらゆる角度・さまざまな切り口で仕事を進めることが可能である」——食とは異なる職種の人を含めたさまざまな人々との出会いから、そんなことを経験し学んだ1年間でした。



「色々な物の考え方を学びました」

道民会議事務局
村井達夫さん